

「コウノトリが舞う里づくり大作戦」記念式典のオープニングで、握手を交わす林武雄さん(右)と松島興治郎さん=6日、越前市武生五中体育館

越前市で飛来40年記念式典

コウノトリ 再び舞う里に



40人出席 兵庫と連携再確認

くちばしが折れたコウノトリ「コウちゃん(武生)」が武生市(現越前市)白山・坂口地区に飛来して40周年を記念した「コウノトリが舞う里づくり大作戦」(記念事業実行委員会主催、越前市、福井新聞社、NHK福井放送局共催)が6日、越前市の武生五中を主会場に開幕した。住民ぐるみでコウちゃんを見守った「ドラマ」から40年。同市がコウノトリ放鳥の候補地として注目を集める中、地元住民らが講演やパネル討論を通して「コウノトリと共生する豊かな里山づくりを誓った」。

(2、3面に関連記事)

式典には地元住民を子孫を残してくれたこと
じめ市、県、鳥類保護関係者が最大の喜び(林さん)、

「子孫を残したコウちゃん」コウノトリ増殖
事業を引っ張ってくれた

基調講演した中貝宗治
豊岡市長は、講演の中で

「再びコウノトリの舞う、人も生きものも元気な里づくりを目指す」とする大会宣言を採択。

式典冒頭、衰弱したコウちゃんのために住民が餌場をつくったり、治療のために捕獲するシーンをとらえた1970〜71年当時の映像が上映された。

当時、県の鳥獣保護担当職員としてコウちゃんを保護した日本鳥類保護連盟支部長の林武雄さん(88)と、越前市と、豊岡市の人工飼育場(現在の兵庫県立コウノトリの郷公園)の飼育員としてコウちゃんを受け取り、治療に当たった同市立コウノトリ文化館名誉館長の松島興治郎さん(69)が紹介され、式典出席者の前で対面した。

2人は「34年間生きて

事「兵庫県と力を合わせコウノトリが舞う里づくりに県挙げて応援した」と述べ、あらためて県内放鳥に意欲を示した。

「再びコウノトリの舞う、人も生きものも元気な里づくりを目指す」とする大会宣言を採択。

7日は、農業のパネル討論や食の文化祭がある。

2人は「34年間生きて